

2025 年度大学院人文学研究科臨床心理学専攻
一般入学試験（2 期） （2025 年 2 月 13 日）

英 語

時間：10：00～11：00

＊ 英和・和英辞典持込可（電子辞書不可） ＊

問．以下の英文を読み，全文を日本語に訳しなさい．

この部分に記載されている文章については、
著作権上の問題から公表することができません。

出典 Balota, DA. (2004). Cognitive Psychology. Psychology Press, New York. Pp. 8-9.

以上

2025 年度大学院人文学研究科臨床心理学専攻

一般入学試験（2 期） （2025 年 2 月 13 日）

専 門

時間：11：20～12：20

大問 1． 以下の問いに答えなさい。（各 20 点）

- （1） 心理療法の効果研究とは何か、これまでの効果研究を通して明らかになったことについてまとめなさい。
- （2） MMSE と HSD-R を比較し、それぞれの特徴について説明しなさい。

大問 2． 以下の心理学用語について説明しなさい。（各 10 点）

- （1） J.Piaget
- （2） マガーク効果
- （3） 社会的公正理論
- （4） 社会情動的選択性理論
- （5） 複雑性 PTSD
- （6） 学習方略

大問 3. 以下の問題ごとの正しい選択肢を選びなさい。(各 5 点)

問題 1 一次予防に該当する行動として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。

- 1 うつ病を再発させないために、カウンセリングを受ける。
- 2 心臓発作の再発を伏せぐため、薬物治療を受ける。
- 3 社内の健診結果で異常を指摘され、精密検査を受けた。
- 4 がんの疑いがあるため、がん検診を受ける。
- 5 糖尿病にならないように、運動習慣やバランスの良い食生活を心掛ける。

問題 2 次の選択肢から、散布度に該当するものをすべて選びなさい。

- 1 分散
- 2 平均偏差
- 3 モード
- 4 範囲
- 5 偏差値

問題 3 睡眠の特徴として、最も適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 レム睡眠中は高速な眼球運動が生じる。
- 2 ノンレム睡眠中は成長ホルモンが分泌される。
- 3 レム睡眠中は知覚情報の入力抑制される。
- 4 ノンレム睡眠中は体の筋肉が弛緩する。
- 5 レム睡眠中は視覚野の活動が活発になる。

問題 4 情動感染のうち、集団内で情動感染が波及する効果を 1 つ選びなさい。

- 1 ripple effect
- 2 band wagon effect
- 3 halo effect
- 4 windsor effect
- 5 stroop effect

問題 5 主線の長さ 100mm、矢羽の長さ 30mm、鋭角 30°のミュラーリヤー錯視の錯視量を測定することになった。100mm の線分を提示し、これを 100 とした場合に見えの長さの判断を求める手法を用いた。この研究方法として適切なものを選びなさい。

- 1 ME 法
- 2 調整法
- 3 VAS
- 4 SD 法
- 5 恒常法
- 6 一対比較法

問題 6 乳児期の発達に関する心理学的研究手法について、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 馴化-脱馴化法は、異なる刺激を次々と呈示し、乳児の関心の変化を確かめる。
- 2 スティルフェイス実験は、他者との相互作用において、乳児がどれだけ無表情になるかを見る。
- 3 選好注視法は、乳児に 2 つの視覚刺激を交互に続けて呈示し、どちらに対して長く注視するかを見る。
- 4 期待違反法は、乳児が知っていることとは異なる事象を呈示して、乳児がどれだけ興味や驚きを示し、長く注視するかを見る。

問題 7 特別支援教育について、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 私立学校では実施されていない。
- 2 特別支援学校教諭免許状が必須である。
- 3 対象となる障害種別は発達障害と知的障害である。
- 4 特別支援学校及び特別支援学級の 2 か所で行われる。
- 5 就学に際して専門家及び保護者の意見聴取が義務づけられている。

問題 8 精神物理学と関係のある人物を選びなさい。

- 1 W.James
- 2 H. L. F. von Helmholtz
- 3 G. T. Fechner
- 4 S.S.Stevens
- 5 H.Ebbinghaus

問題 9 心身症に関連した概念について、正しいものを 1 つ選びなさい。

- 1 心身症は心が原因の病気であり、身体機能の障害である。
- 2 進学や結婚は、気管支喘息の増悪に関与しない。
- 3 アレキシサイミア（失感情症）とは、以前楽しめていた活動に対して楽しめない状態を意味する。
- 4 心身症の患者は社会的には適応上の問題は持っていない人も多い。
- 5 タイプ A 型行動パターンは、消化性潰瘍のリスク要因である。

問題 10 DV（ドメスティックバイオレンス）の被害者への心理的支援の方法には、以下のようなものがある。このうち最も早く求められる支援を 1～5 の中から選びなさい。

- 1 二次被害の防止
- 2 DV や PTSD に関する心理教育
- 3 安全確認と危機介入
- 4 支援情報の提供

以上

一般入学試験（2期）正答

【英語】

Case Studies	事例研究 脳外傷後、認知機能の独立した構成要素に障害が生じることがある（Farah, 1989; Fromkin et al., 1974; Sacchett & Humphreys, 1992 論文参照）。したがって、こうした個人とその障害を研究することは、認知の構造に関する知見をもたらす可能性がある。例えば、てんかん緩和を目的として内側側頭葉を切除されたHMという個人の古典的事例がある。HMは顕在記憶検査では重度の障害を示したが、潜在記憶検査では機能は比較的保たれていた。これは解離（ある能力の障害が別の能力に影響しない現象）の一例である。解離は、二つの言語的処理が異なる脳領域に依存していることを示唆している（すなわち、潜在記憶と顕在記憶は異なる脳領域に依存している）。 特に興味深いのは二重解離であり、障害パターンと維持パターンの両方が認められることである。例えば、異なる二つの脳領域の損傷後に、全く異なる二つの言語障害のパターンが観察されている（Geschwind, 1972, 論文参照）。ブローカ失語症患者（後頭葉と頭頂葉との接合部付近の左側頭葉領域に損傷がある）は言語の理解処理が障害されるが、比較的流暢な発話能力を保持する。二重解離は、二つの言語的処理が二つの異なる脳領域に関連していることを示すより強い根拠を提供する。一方、単一解離現象は、損傷を受けた脳領域で通常行われる処理が別の経路に迂回されるか、非典型的な方略によって補償される場合に生じうる。
--------------	--

【専門】大問1.

効果研究	効果研究とは、カウンセリングや心理療法の効果を検証することを目的とした研究である。臨床心理学の理念の一つであるエビデンスに基づく実践evidence-based practiceとは、入手可能な最善の研究成果を、患者の特徴や文化的背景、希望に則して、臨床的知識と統合することを強調しており、患者の要因、専門家の臨床経験と並んで効果の検証は重要な要素を占める。 心理療法の効果に関しては、1950年代に、アイゼンクEysenckが、心理療法を受けなくても多くのクライアントに症状の改善が見られたという研究を発表して以来、心理療法の効果に関する研究が盛んに行われるようになった。その後、スミスSmithとグラスGlassが、メタ分析の手法をもちいて、心理療法は効果があることを証明した。また、さまざまな理論的立場、学派による効果には顕著な違いは見られないことも明らかになった。 効果研究の方法としては、事例研究を始めとした質的研究法や、心理療法を行う群と統制群を比較した実験研究や、メタ分析の手法が用いられている。 これらの研究から、心理療法の効果に及ぼすクライアント側の要因やセラピスト側の要因について明らかにされてきている。また、様々なアプローチや技法に共通する共通要因についても明らかになってきている。 効果の検証に関する議論において、実験における有効性efficacyと臨床現場における効果effectivenessと言う問題がある。心理療法における有効性efficacyとは、実験的手法を用いて、心理療法を受けた群と受けない群を比較して検証された結果をさす。一方で、臨床現場における効果effectivenessとは、実際の臨床の場においてどれだけの効果が見られたかを調べた結果をさす。手法としては、准実験デザインや質的研究法が用いられることが多い。また、統計的有意性statistical significanceと臨床的有意性clinical significanceという議論もある。統計的有意性statistical significanceとは、実験的手法によって得られたデータを統計的に解析して得られた有意性をさす。これに対して、臨床的有意性clinical significanceとは、心理療法によってもたらされた変化に意味があるかどうかを問題にする。これらは対概念であるが、最近の効果研究においては、心理療法のefficacyとeffectiveness、また、統計的有意性statistical significanceと臨床的有意性clinical significanceの両方を評価する方向になってきている。
MMSEとHSD-R	MMSE（Mini Mental State Examination）は、1975年、アメリカで開発されたもので、国際的にも広く使用されている。問題は11問で、見当識障害・記憶障害・計算障害などを聞き取りで確認し、図形模写で構成能力や、文字を書かせる書字能力や、口頭や文字による指示理解や作文能力を評価するものとなっている。言語性と動作性課題の両方が検討できることになる。 長谷川式と比べると、書字や構成機能も確認できるので、高次脳機能障害の疑いがある人にも簡易検査として使われる。また、国際的に広く利用されているため、論文や発表などの研究に使われることも多い。しかし、視力や手に麻痺があったりなど動作性の困難を抱える人には不向きである。 HDS-R（Hasegawa Dementia Scale-Revised）は、長谷川式認知症スケールと呼ばれているが、1974年に日本の長谷川和夫氏が考案したもので、その後1991年に改定もされている。問題は9問で、見当識障害・記憶（記銘力含む）障害・計算障害など、全て音声による聞き取りで確認する。 MMSEに比べると動作性問題がなく、厳正問題として物の名称想起や語の流暢性の問題などがある。日本でできているため、文化的に違和感なく使用でき、筆記用具も不要なので、安易に施行できる。当初より著作権もなく自由に使われることが認められているため、医療機関のみでなく、高齢者施設や在宅の方の場合は地域包括や在宅医療などの広く使われている。 どちらも認知機能評価スケールで、認知症特にアルツハイマー型認知症のスクリーニングのために使われることが多い。これらは、検査の値だけで診断ができるわけではないが、比較的安易に10～15分程度の短時間で行うことができ、MCI（軽度認知障害）の早期発見や早期介入のために役立てられている。

【専門】大問2.

J. Piaget	J. Piaget (1896-1980) は、子供の認知能力の発達に関する「発生的認識論」を提案したことで有名である。彼は人の思考の発達を「シエマ（外界について理解するための枠組みや知識のこと）」の発達ととらえ、シエマの扱い方の変化から、感覚運動期（～2歳前後）・前操作期（～7歳前後）・具体的操作期（～11歳前後）・形式的操作期（それ以降）の4つの区分に分けた。彼の理論は、発達心理学だけではなく、教育心理学、とくに子どもの言語発達に大きな影響を与えた。
マガーク効果	マガーク効果 (McGurk effect) とは、ある音韻の音声を聞きながら、異なる音韻の発話映像を同時に見ると、音声とも映像とも異なる音韻が知覚される現象である。たとえば、「バ (ba)」と発話している音声と「ガ (ga)」と発話している映像を同時に視聴すると、音声は「ダ (da)」と聞こえる。この現象は、聴覚情報が視覚情報の影響を受ける感覚間相互作用の1種である。なお、マガーク効果の生起は言語による違いがあり、日本語話者では生じにくいことが報告されている。
社会的公正理論	社会的公正理論 (Equity Theory) は、アダムス (J. S. Adams) が提唱した理論であり、人が他者との比較を通して公正さを判断し、その知覚が動機づけや満足感に影響を及ぼすとするものである。個人は自らの「投入（努力・能力など）」と「報酬（給与・評価など）」の比率を他者と比較し、不公平を感じると緊張や不満を覚える。この不均衡を解消するために、行動の調整や認知の修正を行う。したがって、公正さの維持は組織や対人関係における心理的安定の重要な要因である。
社会情動的選択性理論	社会情動的選択性理論 (Socioemotional Selectivity Theory, SST) は、カーレステンセン (Laura L. Carstensen) が提唱した理論である。人は残された人生の時間をどのように認知するかによって、社会的関係や目標の選択が変化すると考える。時間を長く感じる若年期には知識獲得や将来志向の目標を重視するが、時間を有限と意識する老年期には、情動的に意味のある関係や充実した感情体験を優先するようになる。したがって、本理論は加齢に伴う社会関係の変化を、喪失ではなく選択的適応の結果として捉える。
複雑性PTSD	複雑性PTSD (Complex PTSD) は、長期間にわたる反復的で逃れにくいトラウマ体験によって生じる心理的障害である。児童虐待、家庭内暴力、戦争や監禁などが典型的な原因とされる。通常のPTSD症状（再体験、回避、過覚醒）に加え、情動調整の困難、持続的な否定的自己概念、対人関係の困難といった特徴的症狀を示す。国際疾病分類ICD-11において独立した診断カテゴリーとして位置づけられており、単回の外傷体験に基づくPTSDとは区別される。治療はトラウマ焦点化療法や対人関係支援、情動調整スキルの強化など、段階的で包括的な心理社会的アプローチが推奨される。
学習方略	学習方略とは、学習者が学習内容を効果的に理解・記憶・活用するために用いる意図的な方法や手段のことである。代表的な分類として、理解を深める「認知的方略」、学習過程を自己点検・調整する「メタ認知的方略」、学習への意欲や集中を維持する「資源管理方略」などがある。学習方略の活用は学業成績だけでなく、主体的学習態度の形成にも寄与する。教育現場では、単に知識を教えるだけでなく、学習方略を指導することが学習者の自律的成長を促す鍵となる。

【専門】大問3.

問題1 一次予防に該当する行動として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 うつ病を再発させないために、カウンセリングを受ける。
- 2 心臓発作の再発を伏せぐため、薬物治療を受ける。
- 3 社内の健診結果で異常を指摘され、精密検査を受けた。
- 4 がんの疑いがあるため、がん検診を受ける。
- 5 糖尿病にならないように、運動習慣やバランスの良い食生活を心掛ける。

問題2 次の選択肢から、散布度に該当するものをすべて選びなさい。

- 1 分散
- 2 平均偏差
- 3 モード
- 4 範囲
- 5 偏差値

問題3 睡眠の特徴として、最も適切でないものを一つ選びなさい。

- 1 レム睡眠中は高速な眼球運動が生じる。
- 2 ノンレム睡眠中は成長ホルモンが分泌される。
- 3 レム睡眠中は知覚情報の入力抑制される。
- 4 ノンレム睡眠中は体の筋肉が弛緩する。
- 5 レム睡眠中は視覚野の活動が活発になる。

問題4 情動感染のうち、集団内で情動感染が波及する効果を1つ選びなさい。

- 1 ripple effect
- 2 band wagon effect
- 3 halo effect
- 4 windsor effect
- 5 stroop effect

問題5 主線の長さ100mm、矢羽の長さ30mm、鋭角30°のミュラーリヤー錯視の錯視量を測定することになった。100mmの線分を提示し、これを100とした場合に見える長さの判断を求める手法を用いた。この研究方法として適切なものを選びなさい。

- 1 ME法
- 2 調整法
- 3 VAS
- 4 SD法
- 5 恒常法
- 6 一対比較法

問題6 乳児期の発達に関する心理学的研究手法について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 馴化-脱馴化法は、異なる刺激を次々と呈示し、乳児の関心の変化を確かめる。
- 2 スティールフェイス実験は、他者との相互作用において、乳児がどれだけ無表情になるかを見る。
- 3 選好注視法は、乳児に2つの視覚刺激を交互に続けて呈示し、どちらに対して長く注視するかを見る。
- 4 期待違反法は、乳児が知っていることとは異なる事象を呈示して、乳児がどれだけ興味や驚きを示し、長く注視するかを見る。

問題7 特別支援教育について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 私立学校では実施されていない。
- 2 特別支援学校教諭免許状が必須である。
- 3 対象となる障害種別は発達障害と知的障害である。
- 4 特別支援学校及び特別支援学級の2か所で行われる。
- 5 就学に際して専門家及び保護者の意見聴取が義務づけられている。

問題8 精神物理学と関係のある人物を選びなさい。

- 1 W.James
- 2 H. L. F. von Helmholtz
- ☐ 3 G. T. Fechner
- 4 S.S.Stevens
- 5 H.Ebbinghaus

問題9 心身症に関連した概念について、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 心身症は心が原因の病気であり、身体機能の障害である。
- 2 進学や結婚は、気管支喘息の増悪に関与しない。
- 3 アレキシサイミア（失感情症）とは、以前楽しめていた活動に対して楽しめない状態を意味する
- ☐ 4 心身症の患者は社会的には適応上の問題は持っていない人も多い。
- 5 タイプ A 型行動パターンは、消化性潰瘍のリスク要因である。

問題10. DV（ドメスティクバイオレンス）の被害者への心理的支援の方法には、以下のようなものがある。このうち最も早く求められる支援を1～5の中から選びなさい。

- 1 二次被害の防止
- 2 DVやPTSDに関する心理教育
- ☐ 3 安全確認と危機介入
- 4 支援情報の提供